

同心

DOHSIN

1994

2号

クリニックだより

発行所

医療法人 いしぐろクリニック

金沢市窪4丁目515番地

TEL (0762) 43-2500

編集責任者

石黒 修三

同心の由来

病いを持つひと、癒すひと。同じ心でいたいものとの願いからつけました。

相談日を つくりまします



院長

石黒 修三

念願の街医者になったというのに…。患者さんの悩みごとを聞いたり、相談にのったりすることに充分の時間がとれない。夜も、勉強会などの会合や講演などで家をあけることが多い。それでも街医者と言えのかい？と、私悩んでいます。木の芽ときだからですかねえ。

実はこの季節になると、なぜか。ととのわーん。訴えの患者さんが増えてくる。訴えがバラバラでまとまりがありません。いろいろな体の不調があるのですが、診察をしても異常はありません。レントゲンや心電図どころかMRIや

CTといった精密検査でも異常が見付かりません。大抵は、俗にいう「神経」というものです。何故かは分かりませんが、この「木の芽とき」には精神的にバランスが悪くなりやすいようです。

犬でも狼でも、季節の変化で体

にし、体の不調が心を乱すのは。だから、乱れるというのは人間らしいのです。おもしろく愛すべき存在です。

「病は気から」という言葉があります。一般に病気の8割位はこの「気の乱れ」が関係しています。そこに気付かせてあげると、簡単に病気が治ってしまいます。だから、私も」ととのわーん。患者さんほど訴えをじっくり聞いてあげる医者になりたいと思っ



るので。でも現実の話は…。

相談日をつくりま

調は変わります。ひよっとしたら、頭がボーとしていたり、体がカーと熱くなったりしているかもしれない。でも、人間ほどには悩みません。不安も持ちません。人間だけです。心と体の関係に悪循環がみられるのは、心の乱れが体を不調

す。水曜日の一部の時間を使います。悩みごと全般。医者付き合いい方でもよいでしょう。相談したいのだが、診察の時には忙しいのでつい遠慮してしまったということでもよいです。ただし、必ず、受け付けで予約をして下さい。

スタッフ紹介

- ①自己PR (趣味・自慢できる事 etc)
- ②この仕事を選んだ動機
- ③これからの仕事に対する抱負

今回は「岡田先生」を紹介します



①水曜日に外来を担当している医師です。A型・天秤座・既婚一児の父になりました。大学では脳腫瘍に対する遺伝子療法の基礎研究をしています。

②学生実習中に悪性脳腫瘍の末期の小児患者を受け持ち、脳神経外科は非常に多くの要素を持つていて何年経っても一人前とはなれない奥の深い分野だと感じ、脳神経外科を志すことにしました。

「しんぼく会」



三月二十四日(木)キリン北陸工場ビアレストラン。スプリングフィールド。において、いしぐろクリニック新睦会を行いました。

バーベキュー料理をメインにソーセージ料理、肉料理、魚料理などの豊富な山海の幸を満喫しました。

それとなんとといっても、できあがったばかりの新鮮なビールは、午前中の仕事の疲

れを吹き飛ばしてくれるほどおいしく感じ、楽しいひとときを過ごすことができました。

また、受付時間が終了していたにもかかわらず院長先生のお知り合いの方の御好意で工場見学もすることができました。私たちの身近にあるビールがどのようにしてできるのか製造過程を間近に見ながら知ることができ、とても良かったです。(田中記)

NTT講習会に

参加して

津田 弘美

3月10日、NTT電話応対マナーの講習会がスタッフ全員参加のもとにクリニックの2階で開かれました。普段なげなく使っている電話です。が、仕事の上での電話応対は難しい！と感じていた私は、講習会と聞いただけで憂うつになってしまいました。

まず電話の特性ということで、メリット・デメリットについて勉強し、電話応対の心構え、電話の使い方学びました。講習が進むにつれ、後半は実践ということでロールプレイング(電話の受け方)の練習でした。電話機2台でかけ手、受け手に分かれ、色々な条件のもと対応していくというものでした。会話の内容を録音し、後で聞き返し皆で良い点、改善

あなたの脳は大丈夫？

30歳という若いひとでも脳卒中になるのです。ことにバツイチの男性があぶないので。最近では、離婚は深刻な問題でなくなった印象さえあります。が、男性にとつては頭の痛いこと。女性のよりにマメに食事を作ったりする習慣のない男は、食生活が無茶苦茶になってしまします。外食が中心になる。塩分の多い食事が続く。このため、いつのまにか高血圧になっている。バランスの悪い食事を繰り返すために、脳の血管が傷み発病するのです。

MRI (磁気共鳴装置)
で脳を調べてみると、症状が出ていないのに脳に傷がたぐさんできているのに驚かされます。この傷を医学的には無症候性脳血管障害と呼びま

す。私は、これを「隠れ脳卒中」と呼んでいます。ことに、老人斑とも呼ばれる小さな傷は、50歳台では約半数の人に



MRI 検査中のレントゲン技師の高さん

みられるものです。これらは、全てが脳卒中になるわけではありませんが、動脈硬化がモトです。脳の働きが歳以上

に悪くなってしまします。血圧の高いひと、タバコをすうひと、糖尿病のひと、コレステロールの高いひとでは

特に注意が必要です。バツイチありなしにかかわらず、30歳後半から脳を守る必要があります。一年に一回は、MRIで自分の脳の状態を知っておく。これは、自分だけでなく、家族のためにも責任であるようにも思います。もしも異常がみつかったらショックですが、らいやだというひとがいます。気持ちには分らないわけではありませんが、脳卒中は突然発病するものです。前触れや症状が出てからでは遅いのです。

(院長記)

点を話し合いました。自分では、喋り方や声のトーンなど普通だと思っていたのです。ところが、早口で聞き取りにくい声のトーンが低く暗いイメージにとられるなど、いろんな点を指摘されました。

他のひとのやりとりも注意していると、改めて指摘された自分の欠点があつきり見えてくるのに気付きました。一般企業向けと思い受けていた講習もロールプレイングはとて勉強になり、敬語の使い方も会話になるとしどろもどろといった具合でいかに日常くずれた言葉を使っているか思いしらされた気がしました。

それに比べ、インストラクターの方はやはりとても上手で立派なお手本です。声にも張りがあつてはつきりしています。言葉の使い方もうまく会話がなめらかなのに感心させられました。

私など、敬語の使い方はまだまだ下手です。これからは、電話をいただいた時には、明るく心のこもった対応ができるように勢一杯心掛けたいと思っています。

私と絵画

村尾 吉雄さん

私が絵を書き初めたのは、今から56年前のことです。最初は、ただの趣味でしかなかったのですが、8年前に、くも膜下出血で倒れて以来、体が不自由になり、絵を書くということとは、一つのリハビリになりました。

そして、昨年は今まで書いた絵の中から選んで、近所の喫茶店で

個展を開催させていただきました。

2週間という長い期間で、沢山の方に見に来て頂きました。

皆様より色々なア

ドバイスや、下手な絵ですが、中にはお褒めの言葉も頂きました。

言葉だけではなく、友人に数年ぶりに会えたり、収穫の多い、

本当に楽しく良い思い出となりました。



会期中は色々大変でしたが、個展をやってよかった、また一生懸命絵画を書くぞという意気込みでいっぱいです。

絵画は、老人の痴呆防止になると信じ、毎日楽しく書いています。

最近、天気も良くなり、写生会に行くのが楽しみです。

また、絵の展覧会が沢山あるので、出来るだけ見に行くように心

で、出来るだけ見に行くように心

お知らせ

◎ ダイエットの経験者求む!

40歳以下のかた(男女を問わず)で、ダイエットにより体重を五キロ以上落としたことのあるかた。無料で骨密度を測定します。ダイエットと骨粗しょう症との関係を調べます。電話での予約が必要です。

◎ 薬剤師さんが薬の相談にのります!

6月から水曜日以外の午前中に。水曜日は岡田先生の診察日です。比較的すいています。

お願い

◎ 再診のかたはできるだけ予約をお願いします。

◎ 初診のかたは、できれば水曜日以外においでください。

かけております。

これからは、絵を書くこと、個展を開くことが私にとって大切に楽しいこととなっていくと思っております。

編集後記

「同心」の、産みの苦しみは続いています。でも、第一号をお届けした方々から頂いた励ましの言葉が支えになりました。ありがとうございました。ここに紙面を借りて御礼申し上げます。

さて第二号の今回は、「患者さんの会」のご案内も同封しています。私どもと皆様の心が同じになる、本当に良いものをつくりましょう。

